

くらしの

活動大会

明日から始めてみよう

J Aは7月11日、J A総合営農指導拠点センター(花巻市野田)で「くらしの活動大会および農家組合生活部長研修」を開きました。

花巻・北上・西和賀・遠野の各地域から組合員や役員など約340人が集まり、くらしの活動について理解を深めました。(二社)家の光協会が募集している家の光家計簿などを用いた体験文で入選した伊藤美恵子さんや女性部の菊池貴美子さん、青年部の大堰巧太さんが活動実践発表を行ったほか、行政書士の佐山和弘さんと岩手県家の光講師の佐藤淳子さんが講演をしました。

また、会場には支店での取り組みを紹介する支店だよりの展示や、女性部花巻地域支部のコンテナガーデン講習会で作った寄せ植えの展示などを行いました。

会場の全てが、人と人が繋がりをもつて生み出し、広がりを見せた活動です。この大会は、活動を展開していく上で参考となるヒントや活力で溢れていました。参加者は、仲間や地域と共に活動していくことの素晴らしさを実感したことでしよう。

小さな活動でも明日から始められることがたくさんあります。心に浮かんだ思いを行動に移し活動を展開していくことで、さまざまな工夫やアイデアが生み出されます。その活動や思いを心に秘めたままにせず、広く発信し、次世代や他地域の方々に繋いでください。ひとつの活動やひとつの思いが周囲に新たなきっかけを与えます。それが広がることで、地域のあるべき姿を確立し未来に繋がることでしょう。

組合員と地域と共に歩む

J Aは組合員一人一人の課題を、協同の力で解決していく組織です。J Aは支店を拠点として活動を展開し、組合員や地域住民が抱えるさまざまな問題に向き合い、共に歩みながら解決していきます。豊かな地域農業を次世代に伝え残していくために、繋がり、を大切にし、地域の明るい未来に向けて共にくらしの活動を展開していきましょう。



実践発表1

家計簿を簡単に！



伊藤美恵子

家計簿というものを最後まで記帳した経験のない私が1年間継続して記帳することができたのは、女性部の役員を引き受け平成27年から「家の光」を購入したお陰かなと振り返っています。

平成29年に家の光協会の講演で、その週のレシートをまとめて家計簿のメモ欄に添付する方法と、その日の支出合計だけはきちんとレシートの添付の下に記入しておく、週と月の支出合計に繋ぎやすいという研修を受けたからです。

しかし、この記帳方法では、レシートを添付すると家計簿が厚くなります。そこで私は、メモ欄その日の支出内容と支出合計を記すだけにしてレシート添付は記帳できないときのみに変えてみました。家計簿支出項目は、ほとんど空白になりますが、自分の書きたい項目だけ記入する気持ちはとても良いものです。

今回楽しんで家計簿記帳に取り組めたのは女性部研修に参加できた賜物と感謝しています。若いときには女性部の良さを考えることもなく参加していたのが、今は改めて良い活動をし続けるすばらしい組織であると認識し、いろいろな事業に参加しています。今回の記帳を例にしても、研修で学んだことを基礎に女性部員だけでなく、地域の方々にも周知した活動を広げていけたら良いと思います。

実践発表2

てのひらはみんなのために



菊池貴美子

私は、25歳で兼業農家に嫁ぎ、義理の姉から誘われ農協婦人部若妻会に入りました。同世代の部員が集まり、親子でのジャガイモ植え、農業祭の出店、収穫祭とたくさん行事をしていました。

合併に伴い女性部として活動を行い、歳を重ね支部長となりリーダー研修会などに参加するようになりました。その研修の中で6次産業化のテーマを取り上げ、「工房がなくとも企業とコラボして物を作らませんか」というお話を聞き、J Aのイベントで知り合ったお母さんたち4人と「福の手プロジェクト」を立ち上げました。

私たちは共に米農家で、お米をなんとか流通したいと思い、ポン菓子業者とコラボしました。四角い形にノンフライ、無添加にこだわり「うまいポン」と名づけ商品化。右も左も分らないまま6次産業化に取り組みましたが、企業と手を組んで自家生産物を商品化することは誰にでも出来ます。女性部だからこそ農産物に携わる女性の目線で商品を作ることができると思います。

女性部のリーダーとなり、さまざまな研修会に参加して意識を高めることができました。私はこの体験を広め、一緒に活動していく仲間を増やして、みんなの未来のためにこの手を使い、みんなの笑顔のためにこの手を繋ぎたいと思います。

実践発表3

5年間の農業で思うこと



大堰 巧太

私は農業のことがまだ分かりません。農業高校にも農業大学校にも通ったわけではありません。でもこれから農業を担っていく者として、J Aや地域の活動に積極的に参加し、将来的に農業を続けていく方法を模索しています。

私は西和賀町で主にリンドウを家族とともに栽培していますが、農業に対して思うことがあります。それは、ただ西和賀リンドウを作るだけの生産者になってはダメだということです。西和賀花卉生産組合青年支部長になり、役員会や他産地への研修に足を運び生産者もつと積極的にマーケティング活動に関わる必要があると思いました。生産者自ら情報発信することで「西和賀リンドウ」から「大堰さんが栽培した西和賀リンドウ」に変わるのではないのでしょうか。

これからはSNSを活用し産地の情報を発信することで、消費者との距離が縮まり、リンドウを使ったイベントなど可能性が大きく広がります。将来を考えたとき、今までは違った新しい行動や提案を私たちが若者が積極的に行うことが大事だと思います。近年、日本人の生活から遠ざかっている「花」がもっと身近になり心の癒やしになればいいと思います。そのために、新しいことに挑戦しながら美しい西和賀リンドウを私は育てていきます。

終活！  
～相続知識とエンディングノートの活用～



行政書士 佐山和弘さん



自身が体験した相続問題や遺言書の大切さを参加者に訴えました。参加者は、遺言書にまつわるマルバツクイズなどに挑戦し理解を深めました。また、遺言書は長生きするために書くということ学びました。

元気・長生き・健康体操！

岩手県家の光講師 佐藤淳子さん



日常生活から、簡単にできる健康運動を軽妙なトークを交え教えました。参加者全員がひとつとなり、曲に合わせて「ついていけない」「きつい」などと話しながら笑顔で体を動かしました。



受賞した伊藤美恵子さん



支店だより(上)と寄せ植え(下)の展示



笑顔溢れる会場